

ライオンズクラブが

無医地区へ無料検診

もつと地域に密着した奉仕活動はできないものか——と、南国ライオンズクラブ（川北傳佐夫会長、会員五十二人）では、クラブ員の医師八名が十月二十三日、奈路、黒滝の無医地区への無料検診を行いました。

午前九時、会場となった奈路小学校には、各教室を内科、外科、整形外科、歯科、耳鼻科、血液検査の各コーナーに分かれ、それぞれ

の専門医の方が待機。十時過ぎころには、健康手帳を持って大勢の人が訪れ、廊下は検診を待つ人でいっぱいになりました。

この地区は無医地区で、このように各専門医の方の検診をいっしょに受けることはなく、せっかくの機会ということで、全ての検診を受ける方も多くありました。地元の方々は「なかなか忙しくて出ていくことがないので、こんな

ありがたいことはありません」と感激。



それぞれ専門医の先生が詳しく診察した

午後からは黒滝公民館へ場所を移し、午後三時半まで検診を行い、奈路、黒滝地区合わせて計七十人も多くありました。

“観光物産まつり”にぎわう

第七回南国市観光物産まつり（市商工会主催）「表紙写真」が十一月二日、三日の両日、市民体育館で開かれ、買物に訪れた多くの市民でにぎわいました。

今年は、第十一回香美・南国建築祭も同時に行われ、会場は祭りムードがいつぱい。

商工会長らがあいさつしたあと、七月末に決定していた「市観光コンパニオン」の久米由岐子さんら四人のお嬢さんも紹介され、テーパーカットをしてオープン。

会場は市内の業者約四十店が所狭しと出店、訪れた市民は、海産物や果物、衣料品などを買い求めていました。

厚生省が今年発表した寿命の平均年齢は、男性七三・二二歳、女性七九・六六歳となり、終戦直後（昭和二十二年）の男性五〇・〇六歳、女性五三・九六歳と比較すると、わが国もいよいよ高齢化社会を迎えたように思われる。長生きは望むところではあるが、それに伴う貧困、病

苦、孤独を考えると、一概に喜ぶわけにはいかない。福祉対策は、両端が金属製のキセルのように、生まれたときと老後に困らないだけの金をかけてもらいたいと思っている。

老化の早期発見には、日常生活

ボケる人、ボケない人

③人との会話で、自己主張を強く出して相手の話を聞かない。
ボケる人と、ボケない人を比べると――。

ボケる人

○人の言動などを聞かず、自己中心に物事を考え、頑固な人。

ない人。

ボケない人

○本や新聞を読む人
○物を忘れず、気にしない人
○書く人、語る人
○人の世話をする人
○感動を忘れない人

○すぐ腹を立て、どなったり、イライラする人。

○仕事のみに打ち込んで、楽しみ趣味のない人、笑わない人。

○人と相せず、友達のない人。

○人を信じられない、物しか頼れ

るの三つが必要である。

それにもまして、ボケ老人を抱えた家族は悲惨である。病院に入

院も限度があり、家族の経済的負担、過労など地獄の時絵ともなり

かねない。私が老人ホームにあつて、その数が増してゆく状態を見るとき、今後の老人対策も検討の余地があるように思われる。

かかる在宅者の家族のために、

励ましとなり、力となつてお互いに助け合つていこうとする

「呆け老人をかかえる会」が京都にある。

会報の発行、ボケの相談など、少しでも家族のボケ対策と福祉の向上のため役立つものと思われ

る。もしお困りの方があれば、私のところまで連絡くださればご紹介いたします。

広報委員長 山本尚一

住所 後免町三十一―二九

☎42545